

(資料2)

平成20年度 佐賀県立佐賀商業高等学校 学校評価表

1. 学校教育目標
経済社会の各分野で活躍できるように、学校生活のあらゆる機会を通じて商業人として必要な知識や技術を習得させ、生徒の心身を鍛錬する。

2 学校経営ビジョン(中・短期教育目標)
(1)「授業と部活動を真剣に」をモットーに文武両道の教育を推進する。 (2) 基本的な生活習慣を身につけさせ、心身ともに健全な生徒を育成する。 (3) 規律やルールを守り、努力する、心豊かな生徒を育成する。 (4) キャリア教育(生徒一人ひとりの勤労観や職業観を育てる)を推進し、地域社会や日本経済の発展に寄与しうる商業人を育成する。 (5) 教育公務員としての自覚を持ち、資質の向上に努める。 (6) 地域・保護者との連携を強化し、信頼・期待される学校を目指す。

3. 本年度の重点目標	4. 前年度の成果と課題
夢は大きく、あたりまえのことをあたりまえに (1) 明るい挨拶、気持ちのよい挨拶 (2) 授業と部活動を真剣に (3) 具体的な目標を持つ (4) 佐商生らしい身だしなみ (5) 自分のゴミに責任を持つ (6) 毎月1冊以上の読書(朝の10分間読書)	【成果】 進学・就職とも100%達成(国公立14人合格) 【課題】 (1) 特色ある学科を目指しての教育課程の編成 (2) 基礎学力の定着を図るための学習指導体制の確立 (3) 危機管理体制の強化を図る。

5. 総括表						
領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
学校運営	学校経営方針	本年度重点目標の周知	教職員・生徒・保護者に周知する。 ・周知度を90%以上にする。	B ・地区保護者会や総会などの行事において情報発信し周知を図った結果による。 ・学校便りやHPを通し、概ね周知できた。	・職員会議や全校集会等で説明する。 ・学校便り、後援会総会、学級懇談会等の折りに周知を図り、具体的取組みを説明する。	・学校便り、後援会総会、ホームページで紹介したり、生徒集会でも説明し概ね周知できた。 ・今後も学校便りやHPを活用したPR活動を続ける。学校紹介の存在を知らせることが今後の課題である。
	教職員の資質向上	研究授業の推進	・教師一人当たり、年最低1回以上研究(公開)授業を実施する。	C ・長期的(1年を通しての)な計画を立てての実施ができなかった。	・指導方法の工夫・改善のために、各教科での研修や研究の充実を図る。 ・何時でも公開授業ができる体制づくり	・生徒や指導者ともに授業に取り組む姿勢が昨年よりも向上が見られた。 ・使用教材の精選を生徒の反応(状態)を観ながら検討を図った。 ・公開授業の機会が少ないので、計画的な実施が課題である。
		・社会の変化に対応した教育の実践	年1回は研修を受講する。	B ・関係分掌については、可能な限り担当者を研修会等に参加できた。	・県教育委員会や教育センター研修等を活用し、教育環境の変化に的確に対応できる教員の育成を図る。	・研修については、人権・同和教育関係、生徒指導関係、各教科部会関係の研修については参加できた。ただ、授業確保や学校行事等の関係で自らの研修希望が少なかった。研修参加への意識を持ち続けるための工夫も必要である。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題	
	開かれた学校づくり	・一日体験入学の実施	・中学生の参加者数を昨年並み(900人程度)の参加を目指す。	A	・昨年度よりも内容も充実し、情報発信ができたことによる。	・中学校への学校説明(DVD・生徒代表発表)内容の充実を図る。(学校の特長・3学科の特長を充実させる) ・制服、各部紹介のパネル展示等	・昨年度を上回る生徒が参加(1000人以上)、学校の特長や学科説明も生徒代表によるもので充実できた。今後は、授業展開のありかたについてももっと充実できるように内容検討が課題である。
		・家庭や地域への情報発信(鯨の門だより)	・保護者への周知度を85%以上にする	C	・各情報収集が遅くなり、タイムリーさを失ったことがある。	・学校のホームページや「鯨の門だより」を通じて、学校の情報を公表し、ホームページについては、逐次内容の更新を図る。(閲覧の状況、件数の確認) ・アンケートによる保護者への確認、内容の感想等	・HPの逐次更新がなされず時期遅れになることがあった。 ・後援会総会や地区保護者会等で周知を図ったが、HPや「学校だより」は、まだまだ周知の確認方法等の方策を図る必要がある。
	学校施設や教育資源の地域への開放	・各機関からの要望に対する開放に向けての条件整備を行う	B	・できる限り学校行事に影響がないときは、開放できている。(他団体実施の検定でも、生徒が受験にかかわることも多い)	・学校施設を各種試験会場や地域行事等に開放する。 ・地域行事に積極的に協力参加する。	・各種検定等の会場、地域団体使用については、学校行事に影響のないように貢献できた。	
	学校評議員制度等を活用した学校運営の推進	・学校評議員会を学期に1回実施する。	A	・4人の評議員の日程調整は難しいが、3回実施の会議はもちろんのこと、その他の学校行事にも参加いただけた。	・各評議員から出された意見を吟味し、学校運営に反映する。 ・評議員に授業を参観していただき、意見を聴取し、授業や行事の改善を図る。	・学期に1回開催し、今年度は授業参観や施設関係・体育祭・文化祭にも参加してもらい、数多くの感動の意見感想を頂いた。今後は、これらの意見を学校運営にさらに生かせるように、連携を深めていくことが重要である。	
	保護者や地域との連携	・保護者や地域の人を対象に、3回以上公開授業を実施する。	B	・後援会総会前の授業参観は年々多くなっている。 ・学校開放週間における参加者は少ない。	・後援会総会時に、公開授業を実施する。 ・学校開放週間に全ての授業・部活動等を公開する。	・総会時の公開授業には多くの保護者が参観し楽しいひと時を過ごすことができた。 ・学校開放週間を設け、全ての授業・部活動等を公開したが、見学者は少なかった。今後は内容の工夫の検討が必要である。	
教育活動	学力向上	指導法の改善	各教科で分野ごとの到達度を設定し年度末での到達度テストで、70%以上の通過率となるようにする。	B	・各教科科目、工夫した授業展開とを図り、徐々に取組み等よくなっている。	・教科・科目ごとに年間指導計画と評価計画を検証し改訂する。 ・教材の共有化と開発を促進する。 ・職員対象の公開授業を実施する。	・さらに定期的に学習到達度を確認し、生徒自身が自分の目標を設定できるように指導方法を検討する必要がある。 ・基礎学力向上等3年間を見通した指導という点で、まだ課題が残っている。 ・今後も教材の創意工夫を進めていくことが必要である。
		資格取得	・卒業までに全員に1種目以上1級の資格取得をさせる。 ・卒業までに3種目1級以上の取得者数を45人以上にする。 ・卒業までに情報処理科の生徒全員情報処理1級の取得をさせる。 ・国際経済科の3年生までに、全員に実用英語検定準2級を取得させる。	B	・検定への取り組みの充実や部顧問の検定に対する理解が深まった。	・カリキュラムを見直す。 ・単元ごとの確認小テストを実施し、到達していない生徒には、補講を実施する。 ・高度な資格を取得させることで、進学に少しでも有利になるようにする。	・3種目以上1級の資格取得者は、 ①3種目30人(41) ②4種目18人(26) ③5種目11人(16) ④6種目10人(10) ⑤7種目3人(0) ()内は昨年度計72人の生徒が資格取得(7種目は3人増、総計で21減) ・情報処理科については、 ①ビジネス情報1級 48人(89) ②プログラミング1級 70人(27) ③ソフトウェア1人(2) ④基本情報9人(11) ⑤初級SAD7人(4) ・国際経済科(全体)の実用英語検定については、2級に8人(10) 準2級69人(77)が資格取得できた。 来年度は、全種目において今年以上の結果が出るように指導体制の充実を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
		・外部講師による講演実施 ・カウンセリングの充実 (不登校生徒の減少)	・登校(欠席)状態を把握し「期対応」・早期解決を図る。	B ・SADの先生を活用される教員が増えた。 ・不登校の生徒は多くはないが、多様化しているために対応が難しくなっている。	・いじめの問題を生徒・職員全体のこととして捉え、「命の大切さ」を理解させるための講演を実施する ・家庭との連携 ・スクールアドバイザーとの連携・協力(教職員のカウンセリングマインドの高揚を図る)	・カウンセリングマインドの高揚にSADを活用する教職員が増えた。 ・多様化した生徒(心の問題や不登校等)が多くなる中で、いじめ問題も含め、今後さらに未然防止や早期発見、早期対応の意識付けの方策の検討が重要課題である。
	ボランティア活動の推進	・各学年 年1回以上のボランティア活動を実施する。		B ・計画に沿って各学年とも実施できた。	・地域社会において、環境教育を推進する。	・地域(特に学校周辺)の環境をきれいにしていくことや奉仕の心を育てるための各学年における清掃作業等、事前計画やねらいを含め、地域に根ざした行事となっている。 ・多くのボランティア活動について依頼があるが、授業等支障がない限り参加できるようにしたいと考えている。 (ボランティア部の可能な限りの参加奨励)
	体験活動の実施	インターンシップの活用		A ・実施学年の綿密な計画と実施企業等との事前打ち合わせの結果うまく実現できた。	・異年代との関わりを通して、多彩な体験をさせる。	・2年生全員、多くの業種で実施でき、概ね目的は達成できた。
	読書の推進	・自己を見直す時間をつくる。		B ・図書課の創意工夫が見られた。	・推薦書の紹介(図書課・教職員から)	・教職員からの推薦書や新刊の案内など、生徒の読書に関する意識付けになっているが、もう少し生徒の興味関心等の検証が必要である。
健康 体づくり	食育の推進	朝食喫食率を90%以上とする。		A ・保健課・生徒保健委員の活動により、意識の高揚につながっている。	・実態把握のためアンケートを実施し、生活のリズムの安定を図る。 (生活習慣病の減少)	・食に関する意識が全体に高まってきている。 ・朝食の摂食率95%と高く、今後も継続的に調査し、意識高揚を図っていくことが大切であると考え。 ・今年度は、栄養士の先生のアドバイスも受けて、保健便りに食育コーナーを設け、情報を連載した。今後も継続していきたい。
	進路希望の達成	・就職内定率100% 進学決定率100%を目指す ・国公立合格15人以上の合格者を目指す。		B ・進学指導体制の充実ならび進路啓発の内容充実が図られた。	・卒業生の就職先を訪問したり、新規企業開拓にも力を入れ、より優良企業への就職を実現する。 ・進学希望者(公務員希望者含む)に対する補講の実施 ・各学年ごとに進路啓発のためのガイダンスを実施し、それぞれの時期における進路への目的意識を持たせる。	・企業訪問は、昨年同様に多くの企業を訪問・開拓できた。 (新規企業就職者は20人) ・就職内定率は100%達成。進学決定率は98.8%ほぼ目的は達成できている。 ・国公立14人合格 目的はほぼ達成。 ・国公立大学等への希望が増える中において、合格向けの補講体制の充実と個別指導の充実が課題である。
生徒指導	・基本的な生活習慣の確立	皆勤の生徒を5%増やす		B ・出席率99% 欠席なしのクラスがでるなど、生徒の意識がしっかりしている。 ・生徒指導課の指導体制の確立	・「明るい挨拶、気持ちのよい挨拶」運動を推進する。 ・正しい礼儀作法(言葉遣い指導)と佐商生らしい身だしなみ等、マナー指導の強化。	・挨拶運動も定着している。しかし、一部に基本的なマナーができていない生徒が見られるので、生徒会活動や全校集会等でさらに徹底を図っていく。 ・登校時における生徒を観るための立ち番指導等で挨拶もよくなってきた。 ・校内外における身だしなみやマナー等もしっかりしていると評価は受けているが、まだまだ完全でないので、教職員共通理解の下、地域の高い評価をえるために生徒理解に努めながら、根気強く指導を重ねていくことが肝要である。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
教育活動	図書	安全教育の徹底	交通事故(特に自転車事故)の減少 (10件以内)	C ・交通安全への意識は図ったが、結果的に自転車による事故が多くなった。 (被害者であるが、今後さらに交通マナー教育が必要)	・交通指導の徹底と安全教育に対する講話の実施。 ・集会ごとに交通マナー、危機管理意識の啓蒙を図る。	・登下校時における接触事故が多く発生。さらに安全教育の徹底を図っていくことと同時に交通マナーの向上を図っていくことが喫緊の課題である。 ・生徒指導の方針を後援会総会、全体・学年集会等で明確にすることで共通理解は図られているので、さらに指導のあり方を検討していくことが必要
		耐性、忍耐力の育成 (服装基準の厳守)	・校則を守らせる (服装再検査の減少)	B ・生徒の意識向上 ・生徒会活動の充実	・生徒指導方針を年度当初に職員、生徒や保護者に明確に示し、定期的にその達成度を確認する。	・褒めていくことによる指導も大切である、という認識から、生徒自ら考えての行動が見られることが多くなってきている。 ・風紀委員の活動を検討する必要がある。
		・図書館の利用促進	・生徒月1冊の読書を目指す。 ・貸出冊数アップを目指す。 (一人3.2→3.5までアップ) ・図書館便りによる広報活動の充実 ・1、2年生の図書委員によるカウンター当番の実施	B ・図書課の創意工夫 ・読書指導の充実	クラス委員による読書の推進と学校図書利用の呼びかけにより、読書量・貸出量のアップを図る。 ・新刊案内、お薦めの本など広報活動を充実させる。(小論文対策用・課題研究図書コーナー設置) ・生徒の学習に必要な書籍を充実させる。	・貸出し数はわずかに目標値には達しなかった(実質3.4冊) ・各種感想文コンクールの入賞者の増加。特に全国青少年感想文では図書館協議会長賞、また新春読書感想文コンクールでは県知事賞受賞など、活字離れが進んでいるといわれているが、本校では好成績を収めている。 ・読書に関する意識把握に努め、読書習慣がある生徒の拡大のため、指導・広報の充実強化を図る。 ・進学体制の充実ということで、進学に関する小論文コーナーを設けることで蔵書の充実が図れた。
	特別活動	部活動の振興 (活性化を図る)	・部活導入部率90%以上を目指す。 ・高校総体で昨年並みの優勝旗獲得 ・保護者・同窓会への活動状況報告	B ・特活指導課の意識向上 ・生徒への指導体制充実 (部加入推進)	・部活動紹介において、映像や実演を交えて興味を引くようにする。 ・体験入部期間を設定し、体験奨励 ・部活動編成に未入部者に対する追指導を行う。 ・部員指導者研修会を実施する。	・部加入率91%を超え、活動についても6本の優勝旗獲得。目標概ね達成。 ・部活動を辞めた生徒のケアと再入部への働きかけの徹底。
		自主的生徒会活動の拡大	挨拶運動の強化	A ・積極的な生徒会活動	・基本的マナーと佐商生としてのプライド育成を図る。	・自主的活動もスタートし、今後多方面への活動充実を図る方策の検討。
		部員の学習取り組みの意識高揚と部活動活性化への指導	部長会議の充実	B ・部長の意識強化への連絡会実施	・部長としての意識高揚	・事あることに部長を招集し、意識高揚を図り、徐々に浸透してきている。
		部費管理の適正化	保護者への報告	B ・計画的実施がほとんどできている。	効果ある部費の運用を図る。	・後援会総会時に報告。また、顧問会議でも適正な運用を促進した。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
	保健	定期健康診断の事後指導の徹底	健診後の治療率のアップを図る。(各学年70%以上)	C ・部活動関係で1年生の治療率が低い ・保護者、部顧問の理解をさらに図る	・治療に対する意識向上と未治療者への治療を促し、治療率を上げていく。 (保護者や部顧問の理解と協力を得ていく)	・基本的な歯磨き習慣の徹底を図っていく。 ・検査終了後の治療率が悪い(特に1年生)ので、来年度は生徒への徹底を図っていくことが大切である。
		ゴミの減量化(廃棄総重量5%減)	・ゴミの量を昨年度より減らしていく。(5%減目標)	B ・美化委員の活動 ・意識の芽生え ・環境美化への意識高揚	・強調週間を設けて各クラスから出されるゴミの量軽減を図る。 ・各自持ち込んだものは責任を持って処理すること。(持ち帰り運動の推進)	・休業中のゴミの減量はうまくいくが、平常時がまだ不十分である。部顧問の指導も必要である。 ・ゴミの持ち帰りは徐々にできている。教職員においてもさらに意識を持つことが大切である。
		教育相談体制づくり	不登校生徒等への支援体制を確立する。	B ・各学年や保健室との連携がうまくいくようになっている。 ・教育相談の充実	・講演会や保健便りを通じ、心の教育や安全教育的の充実を図る。 ・保健室と学年会(担任)および教科担当との連絡会を通じて、不登校生徒への理解と支援のあり方を検	・月1回の連絡会を開き、気になる生徒の情報交換会を行った。 ・教育相談係りとの連携強化を図る。 ・教職員のカウンセリングマインドの向上を図る。
後援会	保護者との連携	・後援会総会への参加率を70%以上にする。 ・地区保護者会の内容検討(参加率65%以上)	C ・開催時期や場所、さらには保護者へ意識付けの不足	・授業を公開(主に担任による授業)することで、多くの参加を促す。 ・地区保護者会の実施時期と内容検討。	・後援会総会への参加率は約70%であり目標を下回った。 ・地区保護者会の実施は、3地区に分けて実施したが、参加については目標値を大幅に下回り、4割程度の参加しか見られなかった。 ・来年度に向けての実施時期と実施内容等を含め検討しなければならない。	
情報管理	・個人情報保護と情報漏えいの防止 ・学校ホームページの内容充実と定期的更新	・定期的調査と職員への意識強化 ・最新情報のアップに心がける。(各関係部署からの情報収集)	B ・セキュリティへの意識は高まった。 ・情報収集からの発信が遅延	・情報セキュリティ月ごとの調査実施 ・学校行事や部活動の結果をいち早くホームページで知らせ、学校のPR活動に生かす。	・情報セキュリティについては、教職員の意識は高まった。 ・個人情報保護に関しては、サーバー監視に気を配り、ある程度の事前防止はできた。 ・ホームページ適時更新ができず、情報発信が遅れたので、情報収集できたい広報に向けての取組み意識が肝要である。	
学校行事	学校の重点目標に則した学校行事の実施	学校行事100%実施と時間短縮	B ・各課・各学年・各教科等連携がうまく図られた。	・各課との連携を強化し、内容の充実と精選により、授業を確保する。 ・学校行事を考査後に実施する。	・朝読書についても、図書室の利用についても、少しずつだが、習慣化している傾向にある。時間をかけ段階的に調査等をしつつ、改善してますます定着の域に近づくように工夫する必要がある。	
家庭学習	家庭学習の時間確保	毎日最低1時間の確保	C ・部活動で疲れ、学習しない生徒が多い。	・各教科・科目で課題を出す。 (提出期限の厳守と未提出者の指導)	・各教科宿題・課題等出しているが、提出期限については、まだまだ期限が守られていない。実態を掴み教科や部顧問の協力体制を確立しながら家庭学習の充実と学力向上を図る。	

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
特定課題	ITを活用した授業	異文化理解の推進	パソコン活用授業の充実	B ・興味や学習効果を考えて、利用する教員が増えている。	・教職員全員が情報機器を活用した授業を行う。	・情報機器を活用しての授業はある程度スムーズにできるようになってきている。 ・計画的利用の充実を図っていくことが大事である。
	学校の個性化	特色ある教育課程の編成	3学科の特長を生かしながら新学習指導要領に向けた特色ある教育課程の編成に取り組む。	A ・生徒の目標に沿った教育課程の内容の検討ができた。	・生徒の興味関心や進路希望等に対応したコースを設け、教育目標や年間計画を明確にする。 ・アンケート等を通して実態を把握する。 ・新学習指導要領の内容を検討する。	・生徒の進路希望や各コースの教育目標達成のため、教育課程の編成を行った。
	地域開放講座への協力	昨年度より多くの講座の実施を目指す。		B ・生徒自身が積極的に取り組んだ。	「高校生ティーチャアーに参加することで、将来の佐高生を目指す生徒への支援をする。	・3講座の依頼について開講できた。 小学生の満足度が高いとの評価を受けた。
	外部講師の活用	年間指導計画に沿った最低20時間以上の実施		B ・各学科の事前の打ち合わせや内容の充実が図られた。	・生徒の多様な興味・関心に応えるとともに、より高度な資格取得や発展的な学習に結びつける。	・学科コースごとに講師を招き、年間延べ20時間を超え実施できた。
	大学等との連携への取り組み	大学等との連携の基盤づくり(連携先検討)		C ・連携に向けての実践がなされなかった。	・高度資格(日商簿記1級)を取得させ、高大連携の基盤づくりを目指し、難関大学に挑戦させる。	・検定対策として、専門学校の講義等を行ったが、実績を上げる方策の検討が重要。 ・今後はさらに進学や資格取得のための動機付け等が必要である。
	インターシップの推進	実施学年生徒の100%の参加実現		B ・事前準備等の充実が図れた。	・職場での体験を通して、勤労観や職業観を養うとともに、将来の進路を考えるきっかけとする	・全体的に、進路意識の向上につながる活動はできた。しかし事後の進路指導への意識付けを図ることが課題である。
	学校祭(体育祭と文化祭の同時開催)	新たな歴史を築くための体育祭と文化祭を一本化した企画運営		B ・短時間の準備にも生徒の佐高祭意識がしっかりできている。	・文化祭内容と体育祭と同時開催に向けた企画を検討し、地域参加型文化祭を実施していく	・同時開催も生徒の協力で、短期間の準備であったが、素晴らしいものができた。 ・次年度は同時開催の内容をより充実していくための検討を重ね、発展的に行事として取り組むことが課題である。
	起業家教育の推進	・起業家教育の定着 ・知的財産教育の充実		B ・関係機関との連携強化が図られた。 ・事業として定着していることの意識付けがしっかりできた。	・企業を興すまでの一連の流れ学習や新商品開発を目指すことで、将来の起業家の育成を図る。 ・特許庁のテキスト利用から、興味関心を喚起する。	・既存の商品開発をさらに進め、前例踏襲のみでなく発展的な起業家教育の充実した内容に取り組んでいくことが課題である。 ・検証のためのアンケートをとることが必要である。

6. 総合評価

学校経営ビジョンの理解のもと、文武両道に実績を上げることができた年度であった。教職員、生徒、保護者、そして地域の方々の協力と理解を得て、目標実現にむけての諸施策の実践を行うことができた。学校運営や教育の諸活動、特定課題等、各項目について、概ね目標を達成することができ、効果も少しずつ現れてきている。

進路保障については国公立大学合格者、14人の実績を上げ、進路指導の充実が図られた結果と考えている。今後も早い時期から進路目標実現に向けた指導の強化を継続していく必要がある。

また、101年目の年にあたり効果が十分に見られなかった項目については、次年度へ向けての課題として捉え引き続きその実施方法など検討し取り組んでいきたい。

7. 来年度への改善策

102年目に向けた新しい歴史作りに、生徒教職員一体となって取り組む方策を講じる必要がある。

「勉強と部活動を真剣に」を合言葉として、学習の充実について、勉強の習慣化・定着化を図るとともに、進路目標の早い時期での確立や部活動の充実を図り、さらに飛躍する年度にしていきたい。また、地域から信頼される学校、魅力ある学校として評価されるように、各課・各学年等、今年度以上の協力体制構築が重要と考えている。小さな項目(こと)から当たり前のことを当たり前にできる生徒を育成し、目標達成実現に向けて緒方策等を試みながら継続して取り組んでいきたい。

さらに安全で学習できる危機管理体制の充実にも心がけていき、安心した学校生活を送れるよう全教職員共通理解のもと指導体制の強化を図っていくことが重要と考えている。